

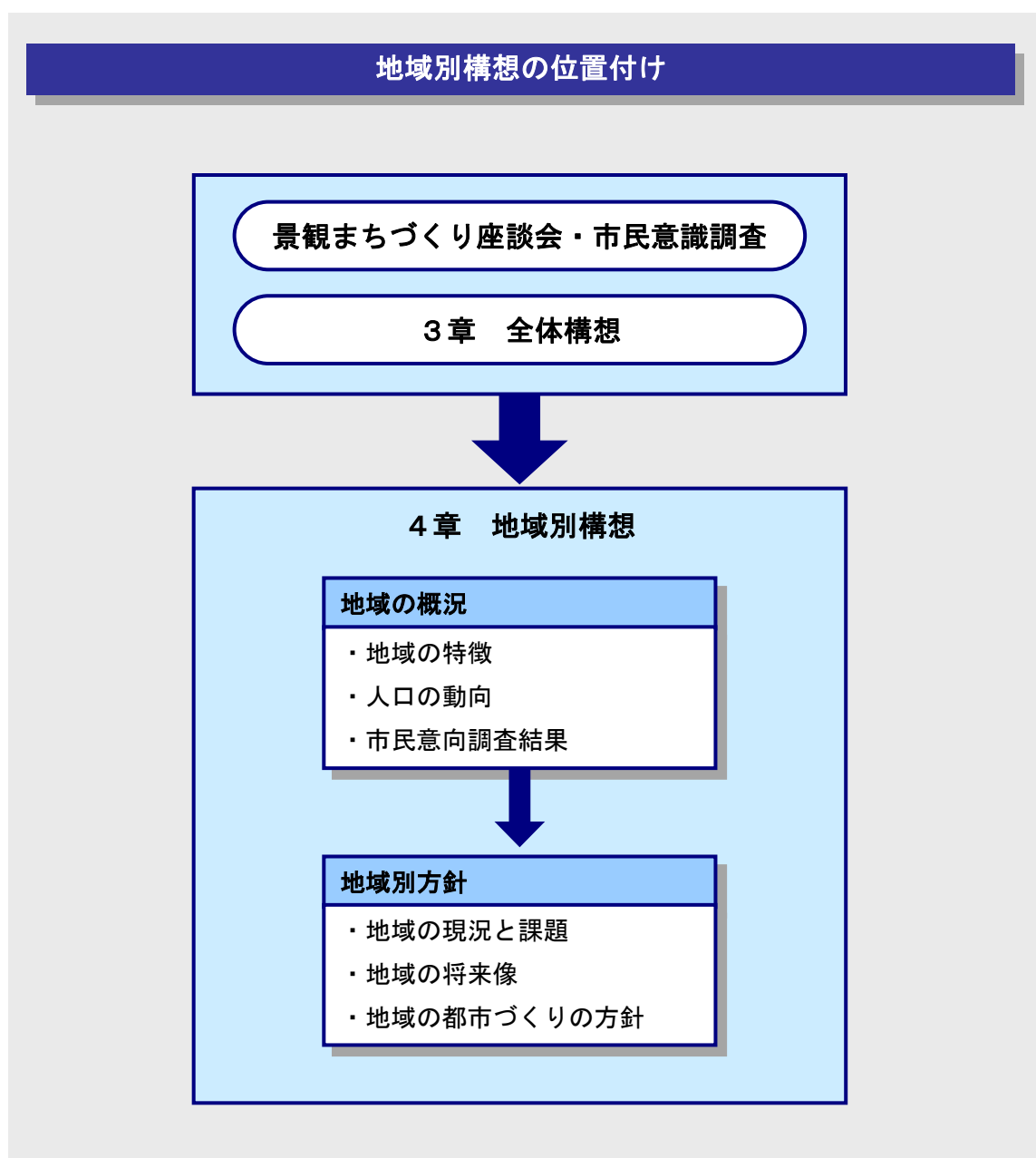
第 4 章

地域別構想

第4章 地域別構想

4 - 1 基本的な考え方

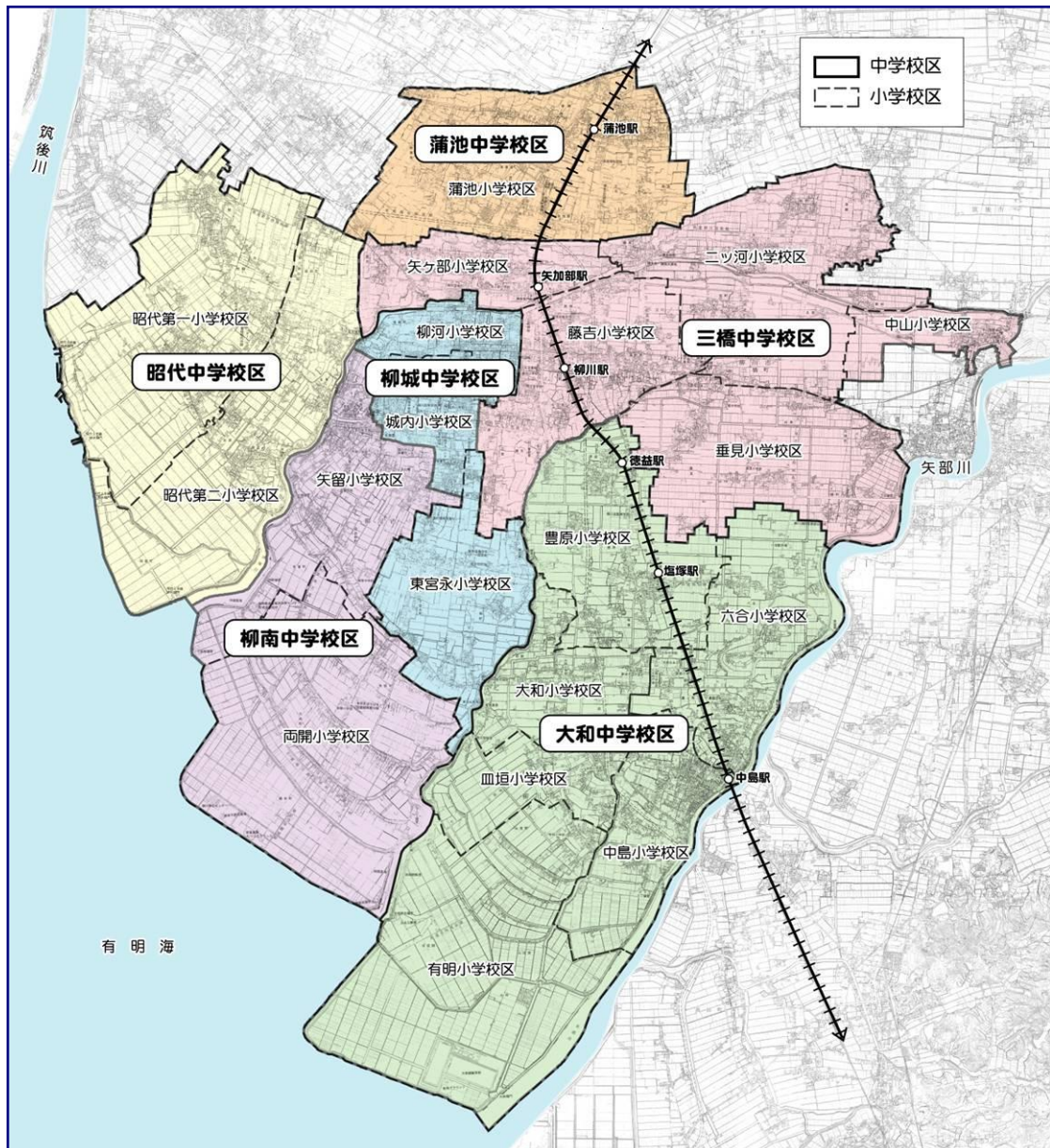
地域別構想では、市域全体を対象に都市づくりの方向を示した全体構想を受け、地域住民座談会などの提言を踏まえて、地域の身近な問題や課題に対応した個性ある地域づくりの方向を示します。



4 - 2 地域区分の設定

地域別構想では、市内の中学校区で以下の6地域に区分している。

- 柳城地域：小学校区（柳河、城内、東宮永）
- 昭代地域：小学校区（昭代第一、昭代第二）
- 蒲池地域：小学校区（蒲池）
- 柳南地域：小学校区（矢留、両開）
- 大和地域：小学校区（皿垣、有明、中島、六合、大和、豊原）
- 三橋地域：小学校区（藤吉、矢ヶ部、ニッ河、垂見、中山）



4 - 3 地域別方針

次より地域別方針について示します。

—— 将 来 像 ——

柳・掘割に囲まれ、
ゆつら一っと巡り過ごせる城下町

—— 地域の概況 ——

■柳城地域位置



地域づくりのポイント：

- 柳川の個性を生かした中心市街地の活性化
- 長期未着手都市計画道路の整備
- 景観重要地区の景観保全

地域の特徴：

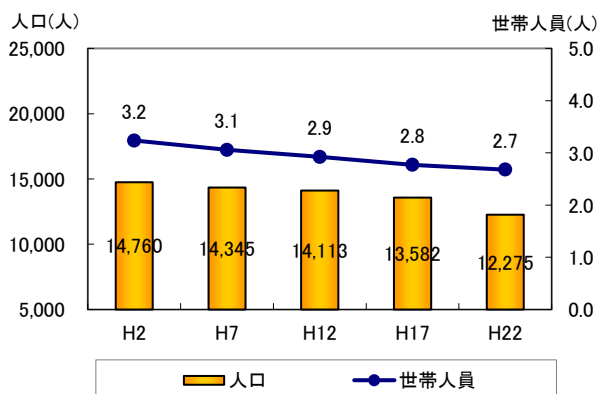
本市の中央に位置し、川下りコースとなっている掘割など柳川らしい水郷景観がみられます。また、市内の商業施設や公共公益施設が集中している地域でもあります。

市民意向調査結果：

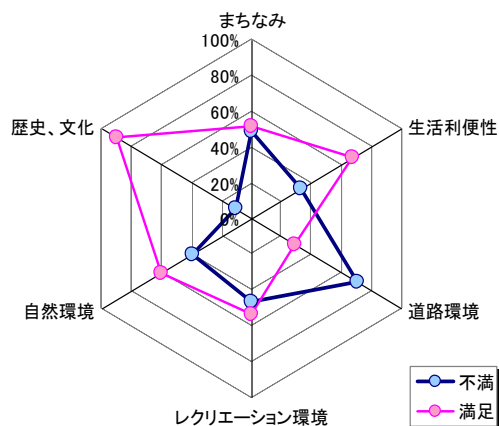
本地域では「歴史、文化」や「生活利便性」・「自然環境」に対する満足度が高い反面、「道路環境」への不満度が高く、朝夕の渋滞などに関する不満が多くみられます。

人口動向：

市全体と同様に人口は減少していますが、最も人口密度が高く、児童数の減少率も近年比較的緩やかな地域です。



▲人口の推移



▲柳城地域の満足度

—— 地域の現況と課題 ——

①土地利用

- ・ 中心市街地の空洞化が進み、高齢者など自らの移動手段を持たない人が歩いて日常の買い物ができる環境やにぎわいが失われつつあります。
- ・ 地域の北部が柳川市景観計画で景観重要地区に指定されています。
- ・ 景観保全ゾーンにおいて、景観保全のための計画的な土地利用の誘導が必要です。
- ・ 地域南部に広がる農地保全ゾーンにおいて、宅地の虫食いの農地転用により優良農地が失われる恐れがある一方で、企業誘致などによる働く場の確保が求められています。

②交通体系

- ・ 都市計画道路三橋筑紫橋線は、長期未着手となっている区間があり、整備を進める必要があります。
- ・ 京町商店街の道路は、歩道が整備されておらず交通量も多いため、高齢者や子どもなどにとって危険です。また、雁木通りも電柱などにより通行しにくくなっています。
- ・ 観光客のアンケートでは駐車場が不足していること、目的地までの案内表示が少ないことが不満要素となっています。
- ・ 観光客の市内の移動手段が不足しています。

③都市施設（供給処理施設など）

- ・ 下水道は、地域の一部が計画区域になっており、早急な整備が求められています。計画区域外においても未処理の生活雑排水や事業所排水の流入が河川や掘割の水質汚濁の一因となっています。
- ・ 現在の市民（文化）会館について、老朽化や安全面の課題を抱えています。

④自然環境

- ・ 観光の要である川下りのコースをはじめ地域全体の掘割について水質の向上と年間を通して安定した水量の確保が必要です。
- ・ 未整備の都市計画公園が3箇所あります。
- ・ 市景観計画の景観重要地区の道路や掘割は、柳川らしさを感じるような緑化が必要です。
- ・ 観光だけでなく市民も掘割沿いのまち歩きを楽しめる環境づくりが望まれています。

⑤景観

- ・ 「柳川市景観計画（平成24年3月策定）」に基づく景観の取り組みを進めています。



掘割の水門



花島菖蒲園

—— 地域の将来像 ——

「柳・掘割に囲まれ、 ゆつら一々と暮らせる城下町」

柳城地域は、城下町の風情が残る景観と静かな住環境が魅力です。掘割と人の関わりの復活や、水生植物を利用した護岸整備など地域の魅力である掘割にこだわり、暮らす人も訪れる人もゆつら一とできるまちづくりを進めます。

—— 地域の都市づくりの方針 ——

①土地利用

- ・広域商業地区となる京町商店街周辺は、住民や観光客が交流する場として、柳川の個性を生かした中心市街地活性化を推進します。
- ・景観保全ゾーンは、景観計画と連携しながら掘割や歴史的まちなみと共存した住宅地区の形成を推進します。
- ・地域南部の田園地区については、営農環境を維持するために計画的な土地利用を図ります。情勢の変化に合わせて他の土地利用の配置が必要な場合は、周辺の営農環境などへの影響が小さくなるよう最大限配慮するものとします。

②交通体系

- ・都市計画道路である三橋筑紫橋線の整備を促進します。
- ・歴史的なまちなみにおいては、街灯や案内板、舗装材に到るまでそのまちなみの歴史的背景や時代意匠を考えたきめ細やかな整備を検討します。
- ・通学路や三橋京町通り線などの中心市街地の道路は、歩行者や自転車など多様な利用者が安全・安心して共存できる環境の整備を図り、電柱地中化など多様な手法についても検討を進めます。

- ・西鉄柳川駅や点在する観光資源を結ぶ観光に便利な周遊バスなど観光客の移動手段について検討していきます。

③都市施設（供給処理施設など）

- ・下水道計画区域は、整備推進と普及率向上を図り、それ以外の地区は、合併処理浄化槽の設置を促進し、河川や掘割の水質保全に努めます。
- ・クリーンセンターについては、資源ごみのリサイクルセンターなどの設置を含め新たな適地での効率的な処理体制の確保と運用を図ります。
- ・水の郷や市民文化会館建設予定地を文化拠点と位置付け、文化発信の中心として、市の個性を生かしながら多くの来訪者を受け入れるとともに、市民が誇れる場所となるよう努めます。

④自然環境

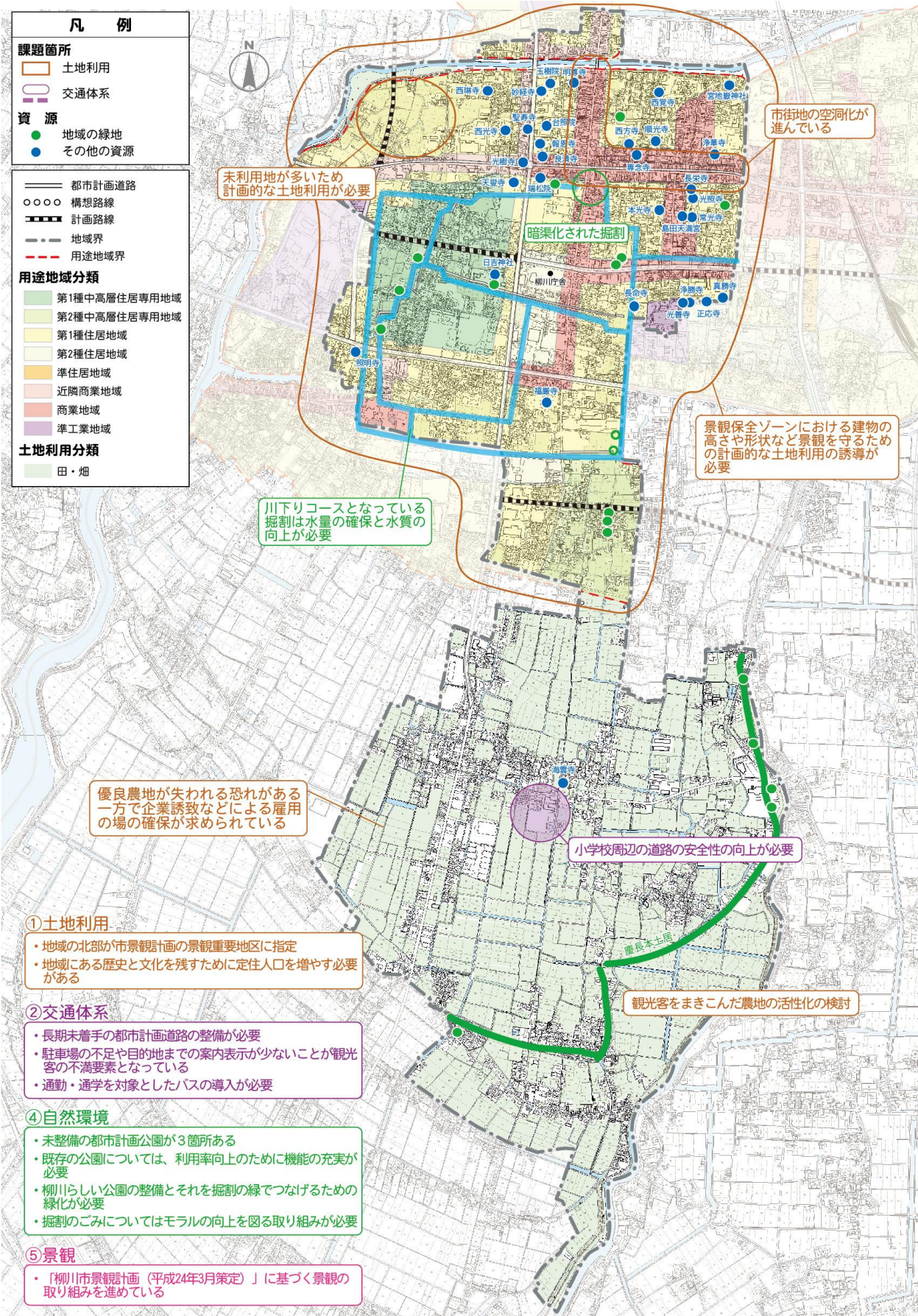
- ・市景観計画の重要地区は、人々が憩い回遊する場として掘割沿いの遊歩道や都市計画公園の整備を図ります。
- ・市景観計画の景観重要地区は、点在する公園や観光施設を水と緑豊かな柳川の風情とともに楽しめるように掘割沿いの緑化に取り組めます。
- ・地域の自然環境を市民と行政が協働して守り育てる活動を推進します。

⑤景観

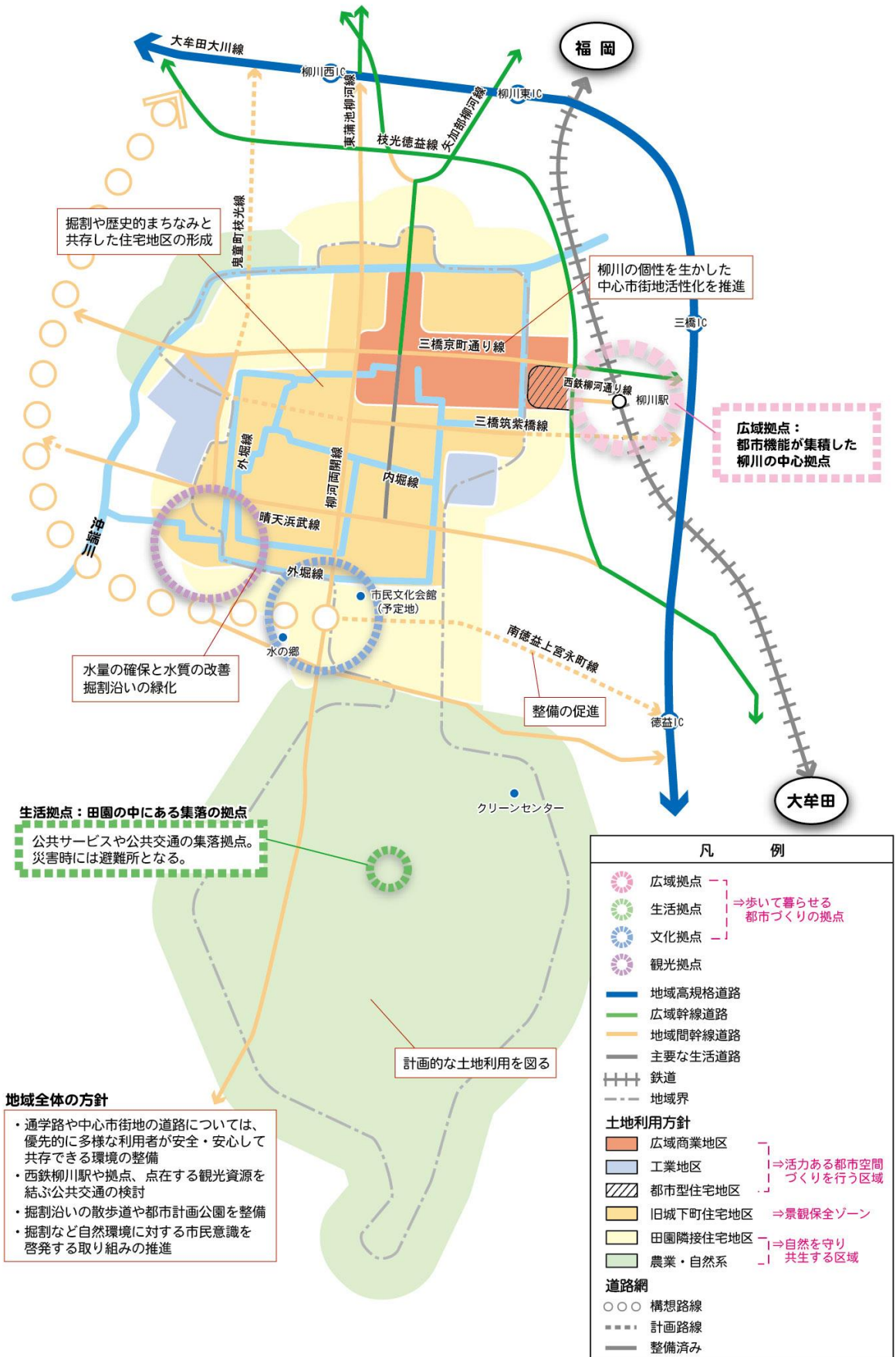
- ・「柳川市景観計画（平成24年3月策定）」に基づき、当地域北部は同計画における中心市街地エリア（城堀周辺地区・旧城下町地区）、また南部は同計画における田園エリアおよび有明海・干拓地エリアの景観形成方針および基準に沿った景観づくりを推進します。

※平成 18 年度に行った市民ワークショップ（景観まちづくり座談会）の意見などを基に作成しています。

地域の現況と課題図（資源と問題点）



20 年後（2029 年）の柳城地域の都市づくり方針図



—— 将来像 —— 夕日と緑にあふれた昭代

地域の概況



地域づくりのポイント：

- 農産物や農産加工品の柳川ブランド化の取り組み
- 美しく豊かな田園景観
- 市街地外環状道路の整備

地域の特徴：

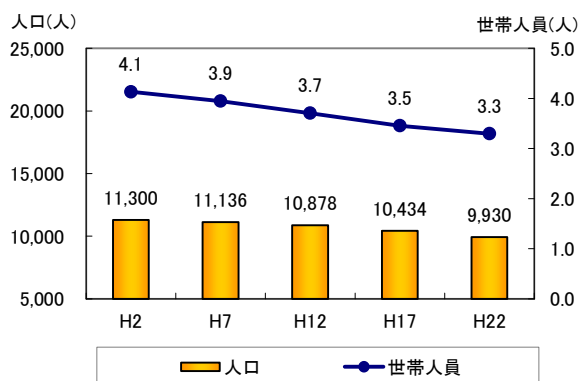
本市の北西部に位置し、北は大川市に西は有明海に面しています。地域には干拓堤防跡や条里制の名残がみられる田園景観が広がる中で、他地域に比べ道路沿いに工業施設の立地がやや多くみられます。

市民意向調査結果：

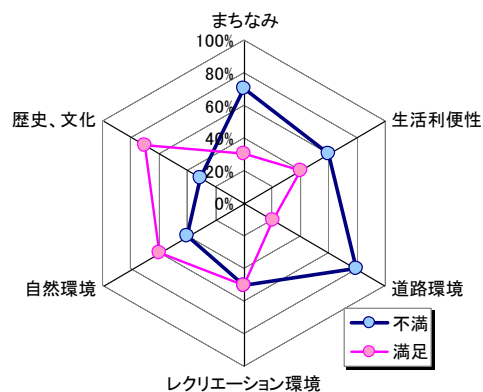
本地域では「歴史、文化」や「自然環境」に対する満足度が高い反面、「まちなみ」「道路環境」「生活利便性」への不満度が高く、特に道路網の不便さや公共施設や買い物環境などの生活に必要な施設がないことへの不満が多くみられます。

人口動向：

市全体と同様に人口は減少しており、他地域と比較すると児童数の減少も進んでいる地域です。



▲人口の推移



▲昭代地域の満足度

—— 地域の現況と課題 ——

①土地利用

- ・大牟田川副線バイパスなど広域幹線道路の沿線は、商工業などの開発が散在的に行われる可能性があります。
- ・地域の北部は、住宅と工業施設など用途が混在しており、土地利用への規制などによる対策が求められています。
- ・現在の集落を維持できるような取り組みが求められています。

②交通体系

- ・佐賀空港や久留米市、大牟田市につながる南北にアクセスする道路の整備が求められています。
- ・通学路や拠点内の道路は、歩行者や自転車など多様な利用者の安全性の確保が望まれています。
- ・自らの移動手段を持たない住民の移動が不便でしたが、コミュニティバスの運行により改善がみられます。

③都市施設（供給処理施設など）

- ・家庭から流れ出る未処理の生活雑排水や事業所排水の流入が、河川や掘割の水質汚濁の一因となっています。

④自然環境

- ・農業の営みを守る意識が高く、農産物や加工品のブランド化などによる農業を生かした地域の活性化が求められています。
- ・慶長本土居を緑化するなど、歴史資源を生かした新たな自然環境づくりが求められています。
- ・集落内の身近な公園については、親水機能を持つ公園が望まれています。
- ・条里制に関連する地名や条里地割は、貴重な文化財です。

⑤景観

- ・「柳川市景観計画（平成24年3月策定）」に基づく景観の取り組みを進めています。



田園風景



梅の木街道

—— 地域の将来像 ——

「夕日と緑にあふれた昭代」

昭代地域は、営農活動とともに田園風景が広がる地域です。農業の生産地として、農産物や農産加工品の柳川ブランドづくりや佐賀空港へのアクセスの確保などにより、営農活動が豊かに成り立つ取り組みが必要です。夕日と緑にあふれ力強く営農活動が生きるまちづくりを進めます。

—— 地域の都市づくりの方針 ——

①土地利用

- ・路線の整備により開発が予想される大牟田川副線バイパス沿線は、営農環境を維持するために、農地転用を抑制するなど計画的な土地利用を進めます。情勢の変化に合わせて他の土地利用の配置が必要な場合は、周辺の営農環境などへの影響が小さくなるよう最大限配慮するものとします。
- ・工場の施設の更新時には、工業地域への誘導を図ります。
- ・既存施設を利用した農産物加工品の更なる展開を検討します。

②交通体系

- ・広域幹線道路大牟田川副線バイパスの整備を促進し、佐賀空港や他の地域への流通体制を強化します。
- ・市街地外環状線道路の整備を推進し、市街地との連携を強化し、生活利便性の向上を図ります。
- ・通学路や拠点内の道路は、歩行者や自転車など、多様な利用者が安全・安心して共存できる環境の整備により安全性を確保します。
- ・自らの移動手段を持たない住民の日常生活を維持する公共交通などの維持を図ります。

③都市施設（供給処理施設など）

- ・合併処理浄化槽の設置を促進し、河川や掘割の水質保全に努めます。

④自然環境

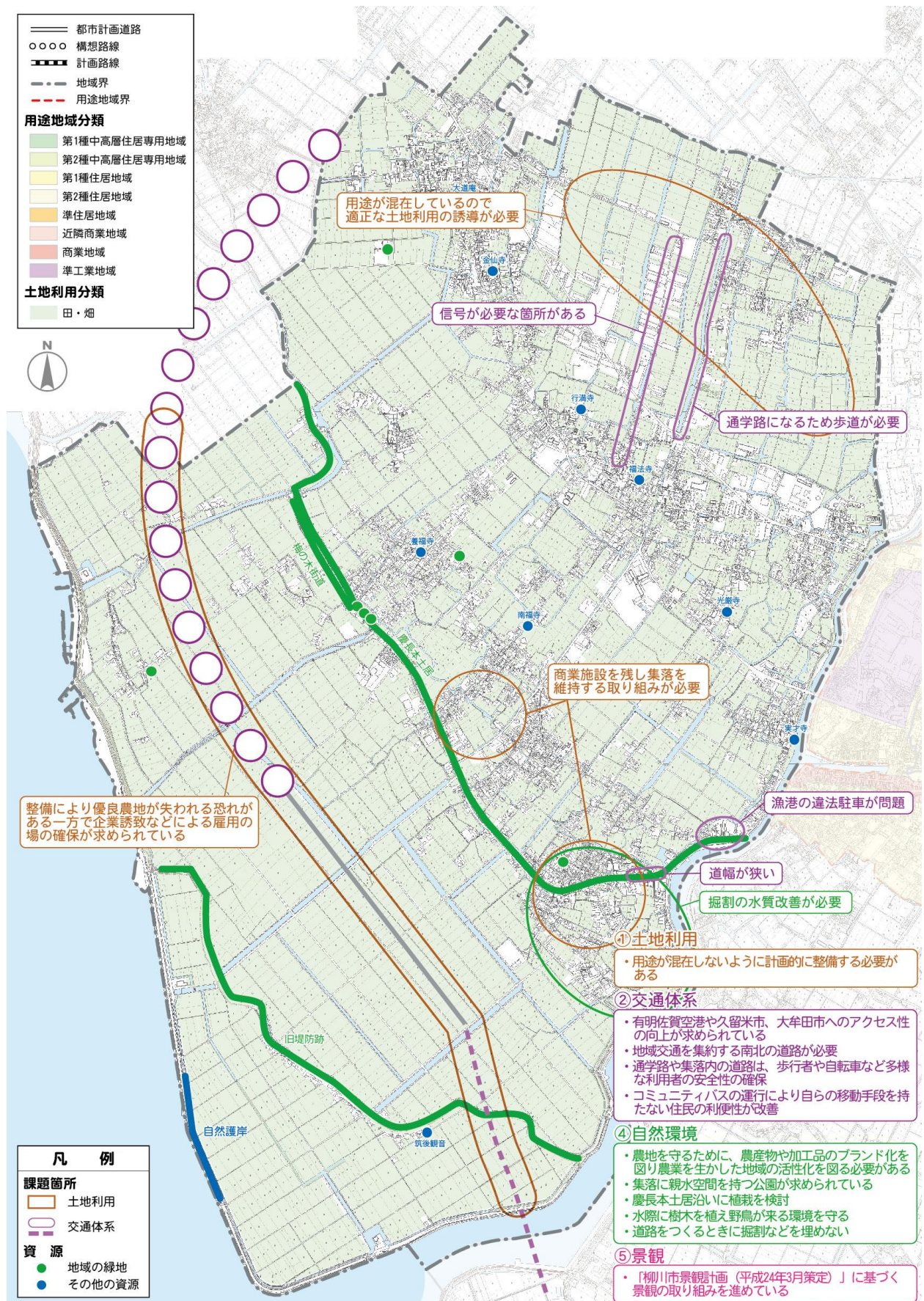
- ・農産物や加工品のブランド化により農業を活性化させる取り組みを進めます。
- ・農地周辺の掘割については、農業経営者と協議を行いながら農業環境に配慮した緑化や水辺づくりを推進します。
- ・慶長本土居跡や旧堤防跡を緑化し、そこに刻まれた歴史の跡を豊かな緑とともにつなぎ守ります。
- ・条里制の遺構である条里地割については、保存について検討します。
- ・地域住民の意見を取り入れた親水空間や公園の整備を推進します。
- ・地域の自然環境を市民と行政が協働して守り育てる活動を推進します。

⑤景観

- ・「柳川市景観計画（平成24年3月策定）」に基づき、当地域北部は同計画における田園エリアの、また南部は同計画における有明海・干拓地エリアの景観形成方針および基準に沿った景観づくりを推進します。

※平成 18 年度に行った市民ワークショップ（景観まちづくり座談会）の意見などを基に作成しています。

地域の現況と課題図（資源と問題点）



20 年後（2029 年）の昭代地域の都市づくり方針図



